

神話

地上は未だ存在していた
木々は未だ林立していた
大気は未だ霧とはならなかった
陽光は未だ届いていた
人間は未だ生存していた
宇宙は未だ生きていた

民衆は未だ知を制していた
文明は未だ文明であった
全ゆる生命は未だ破壊を恐怖していた
祈りは未だ何者かに捧げられていた
愛は未だ感応の香りを失わなかった
風は未だ頬を撫でていた

音楽は未だ詩とともに在った
言葉は未だ感情を支え続けていた
肉体は未だ感応に吸い寄せられていた
生きる恐怖は未だ神の座を守っていた
歴史は未だ意味を失ってはいなかった
カタストロフは未だ起きてはいなかった

孤独な神話は沈黙を続けていた
遙か宇宙の彼方に眠っていた

(1994.2.7)